

竹野地域づくり計画

住みよい竹野にするために



平成24年2月

丹後町竹野区

も く じ

はじめに	1 ページ
I. 発掘調査からみた竹野区の沿革	2
II. 竹野区の現状と課題	3
概要	3
III. 個別のテーマ	3
①人口推移	3
②くらし	4
③まちづくり	5
④ものづくり・まちおこし	5
⑤生きがいづくり	5
⑥ひとづくり	6
⑦安心安全の集落づくり	6
IV. 忘れられた土地資源の活用	7
V. 地域づくり推進計画（明日から将来に向けて）	8
1. 住みやすい環境づくり	8
2. 地域の特徴を生かした集落づくり	8
3. 6次産業の集落づくり	8
4. 健康と福祉の集落づくり	9
5. 文化を生かした地域づくり	9
VI. 実施計画	9
VII. 資料		
資料1 竹野地域づくり計画策定委員会委員名簿	10
資料2 竹野地域づくり計画審議経過	11
資料3 住民アンケート様式	12
資料4 住民アンケート結果	16
資料5 住民アンケート記述一覧	22

はじめに

平成 20 年から始まった竹野小学校廃校の流れは、地域住民や出身者・関係者の驚きの中で平成 22 年 3 月末の廃校式を迎えましたが、複式学級という現実を直視し、ほぼ全員と思える親が子供達の教育の観点から積極的に賛成している姿を垣間見れば、地域の人々は静かに見守る以外の選択肢はなかったというのが現状でした。

秋祭りの「テンキテンキ」は、室町時代の田楽の影響を受けていると伝えられ、民俗芸能の分野で京都府登録文化財に指定されている伝統行事ですが、6 人の子供の確保が出来ず、今期は中止せざるを得なくなりました。祭礼の奉納行事で麻呂子親王の鬼退治に因む「オニ」の儀式は、かろうじて行われましたが、平成 23 年は秋祭りの歴史の中に新たな兆しを起こす始まりの年になるのでしょうか。

竹野地域づくり計画は、竹野小学校の廃校という事実を受け止め、少子化・高齢化が加速度的に進行するこの地区で、これからのコミュニティ活動は如何にあるべきかを探るため、中堅といわれる世代の 20 名で委員会を構成し、5 年・10 年先、更にはもっと将来の姿を思い思いに描きながら、議論の積み重ねの中で策定を進めました。

計画の中には、今すぐのことから遠い将来の可能性を追求することまでありますが、目的は「住みよい竹野をつくるため」です。

子々孫々が、ここに住み続けようと思うような地域づくりを、地区住民が一丸となって進めていきたいと思います。

平成 24 年 2 月

竹野地域づくり委員会

I. 発掘調査からみた竹野区の沿革

『古事記』によると、^{たにわ}且波(丹波) ^{おおあがためしゆごり}大 県主由碁理という豪族が登場します。その娘が^{たかのひめ}竹野比売(媛)であり、九代開化天皇の妃となります。竹野神社の伝承によると、竹野神社はこの竹野媛が年老いて郷土にもどり神社を創建したと伝えています。

この神社に隣接して日本海側で三大古墳の1つである神明山古墳(190m)が、その雄姿を横たえています。古代において、古墳から眼下を見下ろす一帯には日本でも有数の天然の良港(潟湖)が存在し、古代中国や朝鮮半島、そして日本の他地域との交易の玄関口であったと考えられています。

当時のこの地の中心集落は竹野遺跡であり、現在「道の駅」が建設されている場所から東の畑作地帯一帯の竹野小字古馬々、上馬々、野尻、一本松、中田上、福蓮寺(国道北側の参道東排水路から東側は昭和57~58年の圃場整備で小字を馬場に統一)を含めた地帯まで広がっていたと考えられています。

竹野遺跡はこれまで10次にわたる発掘調査が実施されてきました。調査の結果、竹野遺跡は縄文時代に始まり、室町時代までの長期間にわたり営まれた集落遺跡であることがわかりました。特に丹後の弥生時代を代表する遺跡として著名な遺跡です。

検出遺構として弥生時代前期の溝がみつき、特徴的な遺物として、美しい模様の描かれた^{へらがき}篋描^{けんしゆつこう}流水紋土器や^{りゆうすいもんどき}靱痕^{もみあと}の残る土器も発見されています。二千数百年前の米作りを物語る遺物です。また、^{とうけん}陶埴(土笛)と呼ばれる卵形をした珍しい^{おうぎだにいせき}笛も出土し、^{おうぎだにいせき}峰山町の扇谷遺跡や途中ヶ丘遺跡と併せて、京丹後市からは5個出土しています。

古墳時代に入り、神明山古墳の時代の一辺約5mの^{くみあわせしき}堅穴住居や古墳時代後期の堅穴住居も発見されています。小字一本松においては、珍しい小児用の石棺や^{くみあわせしき}組合式石棺も発見されています。古墳時代の^{はじき}土師器や^{すえき}須恵器なども多く出土しています。平安時代の土師器の他、^{かいゆうとうき}灰釉陶器、^{ぼくしよどき}墨書土器や^{えんめんけん}円面硯なども出土しており字の読み書きできる階層が住んでいたことが判ります。福蓮寺という地名が残っており寺院が存在していた可能性もあります。鎌倉時代の墓も検出し、中から^{とうす}刀子と^{わきょう}和鏡(^{さくらやまぶきそうちよう}桜山吹双鳥鏡)が出土しました。

また、中世の^{りゆうせんよう}龍泉窯の青磁、白磁など当時、高価な輸入磁器も多く出土するなど中世において有力者が生活していたことを示す資料が出土しています。^{てんもん}天文7年(1538)に記された『丹後国御檀家帳』には「たかののほら 家数三十軒ばかり」と記されており、この竹野のほらは、竹野遺跡の位置と推定されます。

竹野川河口の竹野遺跡周辺は、古代の天然の港を擁し、丹後でも重要な遺跡が集中する地域となっています。巨大な前方後円墳である神明山古墳や古墳時代中期の「王者の^{ひつぎ}棺」と呼ばれる長持形石棺を納めた大円墳の^{うぶすなやまこふん}産土山古墳が存在しています。また、舟形石棺や長持形石棺、箱形石棺を有する願興寺古墳群、片山古墳などが連なっており、古代タニワの中心となる地域です。

古代の港を通して、中国や古代朝鮮半島から鉄をはじめとする多くのモノや進んだ技術がもたらされました。弥生時代の墓から出土する鉄製品は北部九州について多く、また何百個もの青いガラス玉が棺に納められていました。このように丹後は弥生時代から古墳時代にかけて、極めて進んだ地域であり、この竹野周辺が重要な役割を担った地域だと思われます。

竹野遺跡の発掘調査は、秋祭が始まった時代の竹野集落の中心地が今も祭礼の儀式を行っている下縄手周辺であったこと、その名残が御旅という形で今に伝わっていることを知らしめます。また、竹野集落は安土桃山時代から江戸時代にかけて現在の場所に移動が始まり、民地の中に道路が通る独特の家並みはこの時代からのものと推測されます

II. 竹野区の現状と課題

概要

竹野区は京丹後市の最北端丹後町のほぼ中心部にあり、日本海に面している。耕地面積は少なく、区域内の大部分を山林が占めているが、全国的な例にもれず、生活環境の変化と輸入材が増加する中で山林の荒廃が進み、猿を始めとする有害鳥獣が里に近づき、近年は集落内にまで出没している。

耕地は2級河川の竹野川河口付近の右岸が大部分で、他に早稲田地区で一部集積がみられる。大きな基盤整備事業は次のとおり施工された。

沖田圃場整備	昭和9年9月から同13年5月	事業費 34 千円	圃場面積 37 町 2 反
馬場圃場整備(畑)	昭和 57 年度から同 58 年度	事業費 38,330 千円	圃場面積 5.6 ha
ハイ谷埋立て事業	昭和 56 年度から同 59 年度		
	R178 号新聞人トンネル工事に伴う排出土によるもので事業主体は京都府		
早稲田圃場整備	平成 6 年から同 7 年度	事業費 82,966 千円	圃場面積 4.2 ha
沖田圃場再整備	平成 11 年度から同 16 年度	事業費 605,700 千円	圃場面積 35.6ha

馬場圃場整備は、一輪車農業から脱皮するために必要不可欠な事業として進められたが、各農家が点在して所有する小面積の畑を換地整理するための合意形成に困難をきたし、役員各位の大変な労力の積み重ねの中でようやく整備された。全域に用水管が整備されており、耕作に適した圃場である。

早稲田圃場整備は、地域が棚田であったことや保水機能が悪いことも有り、ハイ谷の埋め立てを契機に地主の機運が高まる中で圃場整備された。

沖田再圃場整備は昭和 13 年に整備された 1 反区画の圃場を 1ha 区画とするもので、全区画に大型農機具が通行する農道と用排水設備が整備され、農業経営の規模拡大に貢献する大事業となった。

これらの圃場整備によって今は耕作放棄地も見られず、農地を守るという意味で極めて大きな成果を認められますが、一方で残念なことは地域の農地を地域の農業者で守れない傾向が生じていることです。近年は他地区からの耕作者が増加しており、せつかくの財産を地域住民が有効活用できていないことは大きな課題と言えます。

III. 個別のテーマ

①人口推移

国勢調査は大正 9 年 (1920 年) から始まりましたが、旧村時代のデータが把握できませんので、丹後町以降の調査結果を次表のとおり抜粋しています。

平成 22 年の国勢調査数値は未発表のため、昭和 30 年と平成 17 年を比較 (半世紀 50 年間の比較になります) したところ、竹野区では世帯数は同数ですが合計人数は 140 人減少 (△40%) しています。丹後町全体では世帯数が 10%、合計人数は 44%減少していますが、減少率の差は 38 豪雪と昭和 40 年代の生活環境の変化による廃村が影響しているものと推測されます。

昭和 45 年から減少人数が多くなっていますが、日本経済は世界的に見ても稀といわれる驚異的な

高度成長時代に入っており、高学歴社会と経済環境の変化が若者に都会への憧れを助長するなど、全国的な現象が竹野にも起きているものと見られます。

国勢調査人口の推移

区分 調査年	丹 後 町				竹 野 区			
	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計
昭和30年	2,546	5,618	6,002	11,620	87	180	221	401
35	2,518	5,323	5,808	11,131	85	181	217	398
40	2,472	4,906	5,418	10,324	88	175	219	394
45	2,417	4,587	5,073	9,660	87	166	199	365
50	2,419	4,479	4,867	9,346	84	153	190	343
55	2,416	4,288	4,667	8,955	84	146	179	325
60	2,382	4,140	4,471	8,611	81	136	165	301
平成2年	2,391	3,822	4,217	8,039	79	121	157	278
7	2,372	3,645	3,962	7,607	91	121	146	267
12	2,375	3,426	3,738	7,164	93	116	150	266
17	2,298	3,148	3,397	6,545	87	111	130	241
22								

②くらし

竹野区が把握している災害時避難家族者名簿による年齢構成 (平成24年1月1日現在)

分 類 (人口統計の分類で整理)	人 数	比 率 (%)
年少者人口 (15歳未満)	10	5.0
若年者人口 (15歳～29歳)	18	8.9
若年者を除く生産年齢人口 (30歳～64歳)	96	47.5
高齢者人口 (65歳以上)	78	38.6
合 計	202	100.0

年少者人口の数値は、急激な少子高齢化現象を数字の上からも明らかにしています。また、竹野小学校が平成22年3月末で廃校となり、間人小学校に統合されたことも止むなしを思わせます。

一般的な生産年齢人口 (15歳～64歳) は56.4%になりますが、高齢層が多く、遠くない将来には65歳以上の高齢者が区民の半数を超える超高齢化集落になることが予測できます。

このため、住民が安心して健康に生活していくために、住民同士の主体性と助け合いの自立と共助の精神に根差した地域社会を創出していく必要があります。



③まちづくり

地区の人口構成を見ると、中高齢者が年々増加していくことは明らかです。元気で生き生きとした地域づくりをしていくためには、この階層が中心になる行動計画が必要です。この地域の課題を整理し「自ら考え、自ら創出する」計画的なまちづくりを進めなければなりません。地域の祭りやイベントを活性化し、活気のある賑やかな地域を目指します。

他所から来た人が何回来ても分からんとつぶやき、家の前にも後ろにも道のある昔から続く家並、超高齢化集落の到来が予測される中で、積雪時や暴風雨を考えれば玄関近くまで車が入り、車庫を持てるような道路計画が必要です。悪天候の救急搬送は尚更のことです。不便な所に人は住みません。今すぐの可能性は考えられませんが、将来にわたり、若者が定着する最低限の条件の一つであろうと考えられます。モータリゼーションの時代に即した道路計画を作ることが、I・J・Uターンの増えるまちづくりを進めることになります。

④ものづくり・まちおこし

集落内の何処にいても聞こえていた機音が響かなくなりました。何処までも澄み切った魅力的な海ですが、小規模な漁業で多くの雇用には繋がりません。民宿も少なくなり、主たる産業と称するものが無くなってしまいました。

丹後町を代表する域内の企業が多くの青壮年の雇用の場を創出しており、当該企業を中核としたものづくりの広がりや、今後も大きな期待がありますが複数の雇用の場が必要です。元気な中高齢者対策につながる、生き生きと身体を動かす体力に応じた労働の場が求められます。

昔から、馬場の畑は老人の「憩いの場」と言われ続けてきました。最近では他地区の人々が動き回る姿が目につきますが、農業実態を検証し、観光農業を基軸においた6次産業が大きな可能性を秘めていると推測されます。生産グループ・出荷グループ等この地域に合った農家組合の設立、区民の誰もが自由に参加できる、新しいスタイルの職場づくりは夢ではありません。

⑤生きがいづくり

独居老人世帯、高齢夫婦だけの世帯が増加しています。高齢者が健康で生きがいのある生活を送るためには、培ってきた知識や経験を発揮できる社会活動への参加が求められます。老人大学竹野版のような教養講座の声があれば、集会所には足の不自由な方でも座れる「思いやり座イス」の充実を図る必要があります。

身体を動かすことこそ生きる楽しさを実感できる喜びです。元気に生き生きと暮らす中高齢者づくりは、元気な竹野を創りだすための扇の要です。区民総参加のまちづくり活動や旧竹野村全域に広がる公民館活動で創意工夫を凝らし、生きがいづくりへの取り組みを進める必要があります。

若者や女性が地域活性化の担い手になり、地域全体が積極的に参加する体制づくりが必要です。竹野区のような超高齢化集落では、ボランティア活動や区政に女性の参画を得なければ何も進まない、そんな時代がすぐそこまで来ているのではないのでしょうか。

⑥ひとづくり

地域づくりに情熱をかける人づくりが必要です。地域で考えられるのは、高齢者と青壮年の交流の場を「ひとづくり」の現場にする取組です。青壮年は高齢者の知識と豊富な経験を見聞し「年配者は凄い」と尊敬の気持ちを抱くようになります。年配者は青壮年の発想や行動力・パソコンを使いこなす姿をみて「最近の青壮年は凄い」と後輩に敬意を抱きながらITを学びます。先輩は後輩から、後輩は先輩からお互いに学び教え合ううちに、地域の中に信頼の絆が深まり、集団の中で一人ひとりが成長を続け、リーダーシップを持った人材が育ちます。教える教育ではなく、互いに学び合う共育の場づくりを必要とする取組です。

定例日に集会所を開放する試み、碁会の日、将棋の日、パソコンの日、馬場の歴史を学ぶ日、遺跡を調べる日、産土山の土砂崩れを知る日、過去の台風被害を書物に残す日、風俗習慣を伝承する日等々幾らでもありますが、要は、老・壮・青が集まろうとする環境づくりが出来るかどうかで成否の決め手があるように思えます。

子どもの虐待や犯罪がマスメディアを賑わせ、社会現象のようになっていますが、都会で起きている現象は何時でもこの地域にも起こり得ることと自覚する必要があります。竹野には15歳以下の年少者人口は本当に少なくなりましたが、子どもたちの健やかな成長を育むためにも、地域の中で人と人との繋がりを深める交流の場づくりは、とても大切なことではないでしょうか。

⑦安心安全の集落づくり

市の防災講演会(8/2丹後市民局)では、「丹後半島沖合の日本海に大きな津波を想定する断層は見られない、日本海は今後も調査されていく」と説明が有りました。この地域に住む多くは大きな津波は来ないという先入観を持っていますが、万一の場合、一次避難所になっている集会所の海拔は6.7mですから、集落内のほぼ全域が危険区域になります。

旧竹野小学校は集落から最も近い安心安全の避難場所ですが、旧耐震設計のままになっています。大事業である学校統合にいち早く全面協力をしたのだから、市はそれに応えて体育館の耐震工事は当然早い段階で実施すると区民の多くが期待しています。竹野川沿いの宮・牧の谷・願興寺区にとっても同じ条件です。土砂崩落等の他の災害時に旧竹野村の文化・体育活動の中心である旧竹野小学校は、地域全体の避難場所でもあります。地域住民の声は早期の耐震工事を期待しています。

大雨警報時、集落内は排水が悪く雨水が絶えず溢れます。波浪警報と大雨警報が重なり集落内の3分の1程度が床下浸水の被害を受けたことが有ります。降雪時は道路が狭いため除雪機械が入りません。ライフラインは呆れるほどの無防備と言えます。

人が住み続けるためには抜本的な対策が必要ですが、極めて困難多く、機運が熟して来なければできません。将来「③まちづくり」の道路計画を進めようとする強力なリーダーシップを持つ人材グループの出現に夢を託していきたいと思えます。

IV. 土地資源の活用

大成台地の経過と現状

京都市内の中小企業に勤める従業員の総合保養施設候補地として、丹後町を通じて用地買収の協議があったのは昭和40年代の始めでした。京都府がバックに控えており、雇用の場につながるものとして好意的に交渉は進み、坪単価500円で売買が成立しました。丹後町報の縮刷版を見ると、国道からの取り付け道路が昭和43年秋に完成、翌年10月に着工し、翌45年8月には150人収容の京都府中小企業クラブハウス「白南風荘」が完成し、夏期は多数の区民が厨房を中心に雇用されておりましたが、建物の老朽化が進むと共に利用者は減少し、その後取り壊され更地になっています。

台地の西は立岩海岸、東は竹野浜から犬ヶ岬を眺望する絶景の地にあり、北側には6世紀の古墳群、更に突端に進むとジオパークの断崖絶壁を眼下に見下ろす、最高のロケーションに恵まれた観光スポットが目を引きまします。

将来の雇用の場につながるものとして全面的に協力したものを、京都府が所有する更地になったままでは何のために土地を提供したのか、元地主を始め関係区民はやるせない思いを抱いています。

大成台地の活用計画は、丹後町域の活性化はもとより丹後半島全体の観光産業に極めて大きな影響を与える最重要課題であります。竹野にとりましては、竹野小学校の今後の跡地利用と共に、地域の命運を左右すると言っても過言ではありません。

竹野区民の多くは、地域活性化の起爆剤となる効果的な土地利用について、「強く大きな期待の声」を内に秘めているのです。



ジオパークとパノラマ台

大成から見渡す立岩から犬ヶ岬までの風光明媚な海岸線は、地域の誰もが誇りに思う豊かな大自然です。この海岸は、およそ2000万年前の火山活動による地殻変動により、日本列島がアジア大陸から分かれ、日本海が創りだされる際の地層を残す、ジオパークを代表する大自然であり、突端からのパノラマは、地球は丸いことを水平線で実感する絶景の場でもあります。

この豊かな自然を利用した活気のある地域づくりを進めなければなりません。多くの観光客を引き寄せる魅力的な素地は既に備わっているのです。

V. 地域づくり推進計画（明日から将来に向けて）

1. 住みやすい環境づくり

1) 道路交通網の整備

- ① 交通安全施設の整備（カーブミラー）
- ② 市道の舗装改良・側溝整備
- ③ 狭隘な集落内道路改良

2) 生活環境の整備

- ① 光ファイバー等の情報網の整備
- ② 下水道の普及拡大
- ③ 集落内下排水路の水質汚濁防止対策

3) 美しい集落づくり

- ① 花いっぱい運動の推進
- ② 桜の木の植樹
- ③ キレイ運動の推進（浜掃除・空き缶回収・タバコのポイ捨て禁止）

2. 地域の特徴を生かした集落づくり

1) 農地・山林等自然環境の保全

- ① 農地・水・環境保全事業の推進
- ② 旧簡易水道新津水源の保全と効率的な利用

2) 都市農村交流事業の推進

- ① 農業と観光連携による都市農村の交流
- ② ジオパークを生かす取組

3) 漁業を海業にする取組

- ① 専業の海業者の応援
- ② 共同利用施設の整備

3. 6次産業の集落づくり

1) 農業の基盤づくり

- ① 耕作放棄地の防止と農業後継者の育成（生産者の気概の充実）
- ② 農家組織・農業グループの育成
- ③ 圃場の団地化の推進

2) 農業の振興

- ① 観光農業を基軸に置いた農業生産活動の推進
- ② 直売所・共同利用施設の整備
- ③ ジオパークを利用した6次産業の取組

4. 健康と福祉の集落づくり

1) 保健・医療の充実

- ① 間人診療所・宇川診療所と連携した健康づくり
- ② 公民館活動と連携したスポーツ教室の充実
- ③ 京丹後市の健康推進事業と連携した健康増進活動

2) 福祉活動の充実

- ① 自助・共助の心の育成
- ② 生涯現役運動の推進（高齢者の活力の発揮）
- ③ 敬老精神の涵養（敬老会事業の参加率の向上）
- ④ 災害避難時の弱者対策の充実

5. 文化を生かした地域づくり

1) 伝統文化の活用

- ① 秋祭りの継続 「テンキテンキの継承・伝承」
- ② 愛宕神社参り・厄神さん・厄神相撲の継続
- ③ お日待ち・三夜待ちの継続

2) 史跡・歴史遺産の活用

- ① 産土山（氏神・三柱神社）の美化管理
- ② チリン堂の清掃管理

3) コミュニティ施設の整備

- ① 集会所の維持管理・整備
- ② 倉庫の改良・整備
- ③ その他の区有施設の管理・整備

VI. 実施計画（前期5年間の主な工事）

「住みよい竹野をつくるために」

子や孫が住み続ける、気が付いたら絆が一杯の集落を目指して、進めよう小さな一歩から

第1年度 倉庫進入路改良工事（600千円）

市道新津線国道交差点付近舗装工事（900千円）

区事務所事務機器整備（200千円）

第2年度 物置改修・屋台の棒格納庫整備工事（900千円）

市道中大道線凸凹段差改良工事（900千円）

第3年度 集会所合併浄化槽設置工事（宅内工事800千円）

市道中大道線凸凹段差改良工事（900千円）

第4年度 集会所内装等修繕工事（畳・カーテン他900千円）

集会所備品等整備（700千円）

第5年度 野菜共同販売施設新設工事（1,000千円）、区内道路改良工事（3,000千円）

VII. 資料

資料1

竹野地域づくり計画策定委員会名簿

平成23年度

委員名	役職・所属等	備考
大下省三	区長	
大下道之	副区長	
坂本義夫	副区長	
野木洋子	1組 議員	H14~22 民生委員
安田重勝	2組 議員	宮衆総代・H20~21 副区長
大下肇	3組 議員	H22 竹野漁師組合長
尾瀬徹	4組 議員	
中山透	5組 議員	
丸山史郎	1組 副区長経験者	体育指導委員・H16~17 副区長
小谷和彦	2組 副区長経験者	H20~21 副区長
大下一成	3組 副区長経験者	公民館主事・H18~19 副区長
中山博	4組 副区長経験者	H14~15 副区長
尾瀬重一	5組 副区長経験者	H7~8・H14~15 副区長
大下弘子	1組 婦人 組合職員	
大下ふみ代	2組 婦人 織物業	
野木信子	3組 婦人 ヘルパー	
藤本和代	4組 婦人 講師	
野木日出子	5組 婦人 看護師	
小谷順一	学識経験者	
長門弘之	学識経験者	青壮年会副会長

竹野地域づくり計画審議経過

月	日	会議等	内容
5	17	区役員会	第4回区議員会 まちづくり計画に取り組むことを確認
6	6	市民局協議	まちづくり支援事業について市民局で打合せ
	9	区役員会	第5回区議員会 計画策定委員会の委員構成協議
7	21	区役員会	臨時議員会 計画策定委員会委員を確認
	28	区役員会	第6回議員会 計画策定委員会への提案資料確認
8	4	策定委員会	まちづくり支援事業について市民局長より説明を受ける
	10	広報	区民だよりNo.4で策定委員会の設立と趣旨を区民に周知
	24	策定委員会	アンケート案の検討、スケジュール確認
9	8	事務局会議	策定委員会の進め方について意見交換
	17	策定委員会	アンケート内容検討、地域の特徴について意見交換
	22	区役員会	第8回議員会 アンケートの配布・回収について協議
	29	広報	区民だよりNo.7でアンケートの説明と協力を依頼
	29	議員	アンケート配布
10	8	議員	アンケート回収
		事務局	アンケート簡易集約
	22	策定委員会	アンケート簡易集約報告、地域の将来像について意見交換
11	3	事務局会議	アンケート集約について意見交換
		事務局	アンケート集約
12	15	事務局会議	計画案・実施計画案について意見交換
	16	市民局長協議	計画案取りまとめについて
1	26	事務局会議	地域づくり計画 素案まとめ
2	4	策定委員会	地域づくり計画 承認
	26	竹野区決算総会	総会に報告
	陶		京丹後市に承認申請

策定委員会＝竹野地域づくり計画策定委員会 20名

区役員会＝竹野区政を執行する区長以下三役と議員5名 計8名で構成

議員＝竹野区を5組で構成、各組から選出された役員5名

事務局会議＝区三役及び策定委員の中から区長が指名した委員で構成

「竹野地域まちづくり計画」のための住民アンケート

21世紀に入り、農協・信用金庫の合併、銀行の支店閉鎖など地域経済が激変する中、昨年3月には地域のシンボルでありました竹野小学校が廃校に追い込まれるなど、私たちの身近な生活環境は、過去に経験のない速さで大きな転換期を迎えています。

京丹後市が誕生して早くも8年目、500平方Kmを超える広大な面積を有する京丹後市、中心部の「峰山」と唯一隣接していない丹後町の竹野、「市が大きくなって声が届かなくなった」、「顔が見えない」、「市民局の職員が少ない……これで大丈夫か」などの不安の声も聞かれます。

その昔、秋祭りの「テンキテンキ」は小学校の高学年が演ずるものでしたが、少子化の影響で存亡も危ぶまれる昨今、地域のことは、まず地域に住む我々が考えていかねばならない、自助努力の時代の到来です。竹野地域の将来を、外の誰も気にしてくれることはありません。

そこで、竹野区の明年以降10年程度の「竹野地域まちづくり計画」を策定することといたしました。計画策定に当たり、竹野区内にお住まいの皆さん全員のご意見・要望を集約したいと考え、住民アンケートを実施します。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成23年9月

竹野地域づくり計画策定委員会

このアンケートは、高校生以上の皆さん全員を対象としています。

10月7日(金)までに各組長にお渡しください

(該当する番号に○を付けてください)

問1. あなたの性別は。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2. あなたの年齢は。(記入日の満年齢)

1. 19歳 以下	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70歳 以上	

問3. 隠居も含めてあなたの家族、続柄は。(※(3)は該当の方だけ記入下さい)

(1)ご家族の人数は、あなたを含めて()人		
(2)続柄を教えてください。ご家族の中であなたは		
1. 世帯主	2. 世帯主の配偶者	
3. 世帯主の父母・祖父母	4. 世帯主の子・孫・その他	
(3)結婚・転入等で竹野に住むことになった方、あなたは [該当の方だけ記入]		
1. 結婚	2. 転入	3. その他

問4. あなたのお仕事は(兼業の場合は主たる方)

1. 農業・漁業(主として)	2. 自営業(織物・民宿など)	3. 会社員・公務員等の勤め人
4. 学生	5. アルバイト・パート	6. 家事専業
7. 無職	8. その他(具体的に:)	

問5. 地域の住み心地はどうですか。

1. 住みやすい	2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい	4. 住みにくい

問6-1. 問5で ①・②と答えた理由は何ですか。(複数回答可)

1. 生まれた時から住んでいるから
2. 都会より住みやすいから
3. 自然が豊かで子育てに良い
4. 人情が厚く人間関係が良い
5. その他(具体的に:)

問6-2. 問5で ③・④ と答えた理由は何ですか。(複数回答可)

1. 世間狭く干渉されやすい
2. 区内の道路が狭く下水道も未整備
3. 公共施設が遠い(市役所・病院・文化施設など)
4. スーパーなど買い物施設が遠い
5. その他(具体的に:)

問7. あなたは、将来の竹野地域がどのような地域にあってほしいと思いますか。(各項目 2 つ以内を○)

生活基盤	1. 道路・下水道が整備・充実されたところ
	2. 災害や事故のない安心・安全なところ
	3. 高齢者や弱者が安心して暮らせるところ
	4. 健康づくりの施策が充実したところ
	5. 今のままの素朴なたたずまい
	6. その他()
産業基盤	1. 農業・漁業を守っていく地域づくり
	2. 農業・漁業の後継者を育てる地域づくり
	3. 農業の集団化を目指す地域づくり
	4. 多くの観光客を呼び込む、交流人口の増加を目指す地域づくり
	5. ものづくり等の新たな風を起し、雇用の場を確保する地域づくり
	6. その他()
自然・文化 その他	1. 地域資源(田畑・海・古墳)を守り、生かすところ
	2. 竹野神社・産土山などの歴史遺産や祭り等伝統文化を生かすところ
	3. スポーツや文化・公民館活動の盛んなところ
	4. 花いっぱい運動など地域の美化に努め、自慢のできる場所
	5. ゴミ減量やリサイクル活動など、環境問題に取り組むところ
	6. その他()

問8. あなたにとって地域の誇り、自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

1. 産土山・大成等の古墳や遺跡	2. 竹野浜・えびす山等の海岸線
3. 馬場の畑と新鮮野菜	4. 海の幸
5. イベント・祭り	6. 地域全体の素朴な自然
7. その他()	

問9. 地域の中で課題と思うことは何ですか

(思いのままに例えば、道路が狭い・夜暗い・小売店が無い・雨排水路の整備・気軽に集会する場など・・・)

問10. 町民運動会は授業(義務教育)の一環として行われますので、竹野地域の小中学生の教育の場として連合区の総意で運動会を継続しています。あなたは運動会についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 今のまま継続	2. 対抗地区の編成替え
3. 種目の見直し	4. 自由種目のイベントを楽しむ
5. その他()	
6. (2・3・4に○をされた方、具体的にお聞かせ下さい)	

秋祭りは、昨年より屋台巡行の宿の見直し等、継続することの重要性を重視した改革が進められていますが、伝統の秋祭りを今後どうしていくのか、あなたのお考えをお聞かせ下さい。

問11-1. 子供の確保が困難になっているテンキテンキについて、あなたはどう思いますか。

1. できる年だけしたらよい	2. 6人にこだわらず、できる人数で継続
3. 子供が無理なら大人で継続	4. 女の子が混じっても継続
5. その他()	

問11-2. 屋台の担ぎ手が減少しています。他町では軽トラに積んだ太鼓をたたいている地区も有ります。昨年より巡行の宿の見直しがされていますが、少子高齢化時代の祭りの有様をどのように考えますか。

1. 無理をせず、台車に乗せてけん引する時間を増やす
2. 台車の高さを、肩の高さに改良して担ぐ
3. 宵祭りは軽トラに太鼓を積んでも良い
4. その他()

問 12. 学校跡地について、ご意見をお聞かせ下さい。

竹野小学校跡地は、正面は日本海を、西は田園風景を眺望する豊かで自然に恵まれた台地です。この跡地の活用如何は「地域の命運を大きく左右する」といっても過言ではありません。

竹野地区まちづくり協議会(連合区)は平成 22 年 8 月、市当局に要望書を提出、その内容は、

- ① 体育館は、「災害時の広域避難場所及び地域の文化スポーツ活動に必要な整備」
- ② グラウンドは、「全面芝生化と夜間照明施設の再整備」
- ③ 校舎は、「地元雇用が可能な福祉施設等の誘致」

となっておりますが、土砂災害警戒区域との関係も有り、今のところ不透明な回答です。

あなたは、学校跡地の利用について、どのように考えておられますか。何を期待しますか。

1. 竹野地区まちづくり協議会(以下「協議会」という)の要望に全面的に賛成	
2. 協議会要望に概ね賛成だが	意見ありの方の意見記入欄
イ. 体育館については意見あり	
ロ. グラウンドについて 々	
ハ. 校舎について 々	
3. 全く違う考えをお持ちの方は意見をお聞かせ下さい	

最後に、自治会や地域づくりに関するご意見などがありましたらお書き下さい

ご協力ありがとうございました。

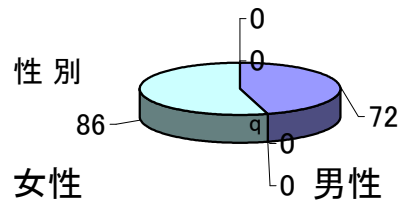
別途資料(アンケート調査表)の回答結果を基に基本的な集計を行い、図表で整理した。

● アンケート回収率(有効回答数)について

配布枚数	回収枚数	回収率
192	158	82.3%

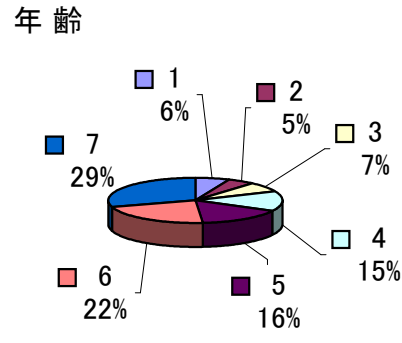
● 問1 性別について

1、男	2、女
72	86



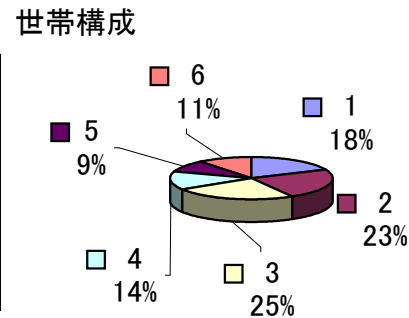
● 問2 年齢について

年代	人数	率
1 19歳以下	10	6.3%
2 20～29	8	5.1%
3 30～39	11	7.0%
4 40～49	23	14.6%
5 50～59	25	15.8%
6 60～69	34	21.5%
7 70才以上	47	29.7%
計	158	



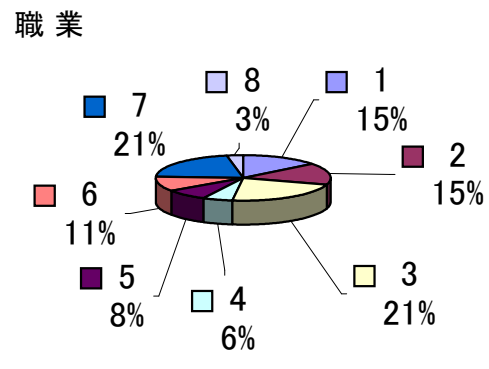
● 問3 世帯構成について

人数	世帯数	率
1 人世帯	12	18.5%
2 "	15	23.1%
3 "	16	24.6%
4 "	9	13.8%
5 "	6	9.2%
6 "	7	10.8%
計	65	



● 問4 職業について

職業	人数	率
1 農業・漁業	23	14.6%
2 自営業	24	15.2%
3 会社員	35	22.2%
4 学生	9	5.7%
5 アルバイト	12	7.6%
6 家事専業	17	10.8%
7 無職	33	20.9%
8 その他	5	3.2%
計	158	

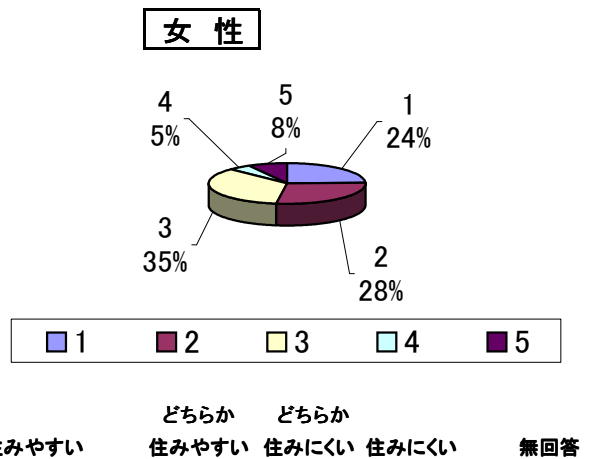
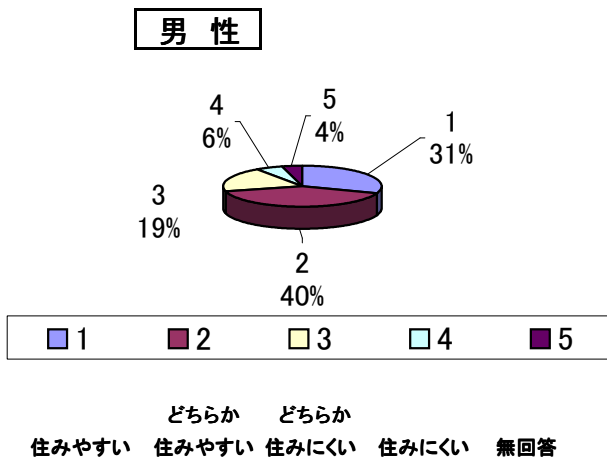
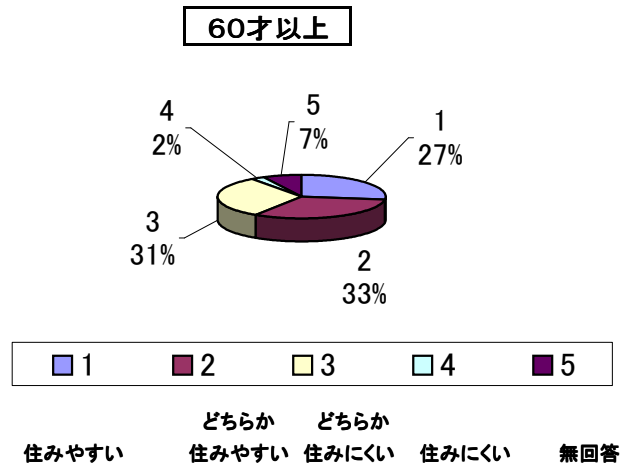
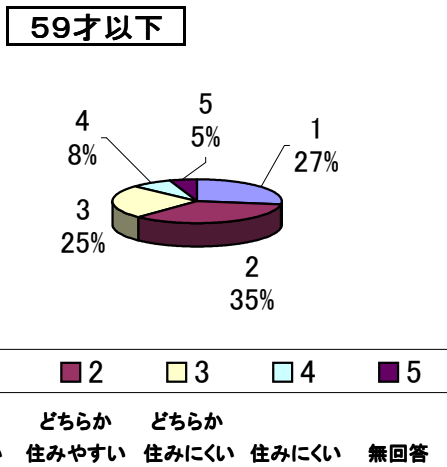
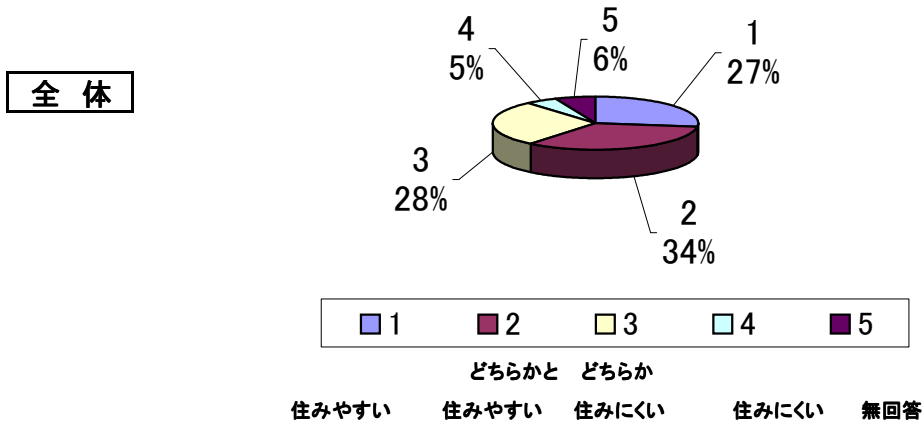


回答者の属性(問1～4)

- ★ アンケートの回収率は、配布枚数192枚に対し158枚で回収率は82.3%とまずまずの回収率であったと考えており、その内訳は、男性が72人、女性が86名で女性の集約枚数が多くなっている。
- ★ 年齢層では、70歳以上が47名と最も多く、続いて60～69才、50～59才と続いており60才以上が半数以上となっており、高齢化比率が高くなっている。
- ★ 世帯構成は、3人が最も多く16戸、続いて2人が15戸、1人が12戸の順となっている。又、1人、2人世帯が全体の40%を超えており高齢者のみの世帯が多い状況が分かります。
- ★ 職業については、会社員35名、自営業24名、農業23名と続いており、無職33名、家事専業24名となっている。

●問5 住み心地について

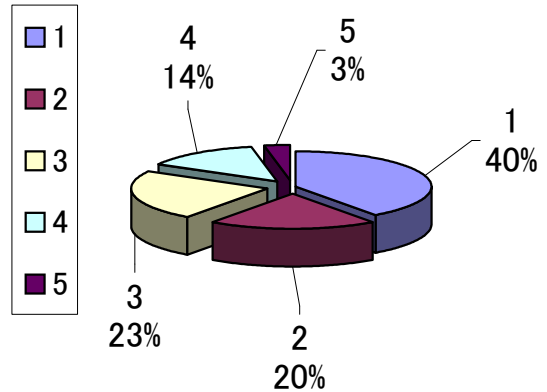
問い5	1、住みやすい		2.どちらかと住み易い		3、どちらか住みにくい		4、住みにくい		5、無回答	
全体	43	27.7%	53	34.2%	44	28.4%	8	5.2%	10	6.5%
59才未満	21	28.4%	27	36.5%	19	25.7%	6	3.9%	4	5.4%
60才以上	22	27.2%	26	32.1%	25	30.9%	2	1.3%	6	7.4%
男性	22	31.4%	29	41.4%	14	20.0%	4	2.6%	3	4.3%
女性	21	24.7%	24	28.2%	30	35.3%	4	2.6%	7	8.2%



●問6 住み心地について

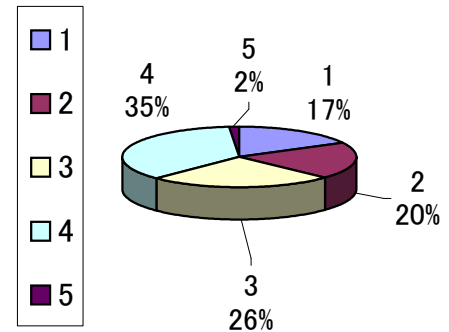
(住みやすい理由)

1 生まれた時から住んでるから	52	40.0%
2 都会より住みやすいから	26	20.0%
3 自然が豊かで子育てに良い	30	23.1%
4 人情が厚く人間関係がよい	18	13.8%
5 その他	4	3.1%
計	130	



(住みにくい理由)

1 世間狭く干渉されやすい	23	17.3%
2 区内の道路が狭く下水道も未整備	26	19.5%
3 公共施設が遠い(市役所、病院、文化施設など)	34	25.6%
4 スーパーなど買い物施設が遠い	48	36.1%
5 その他	2	1.5%
計	133	



竹野地区の住み心地について

「すみやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると61%で同様の調査(他町)の地区と比較し20ポイント低くなっている。

住みやすい理由としては、「生まれた時から住んでいる」が最も多く「自然が豊かで子育てに良い」、「都会より住みやすい」となっている。

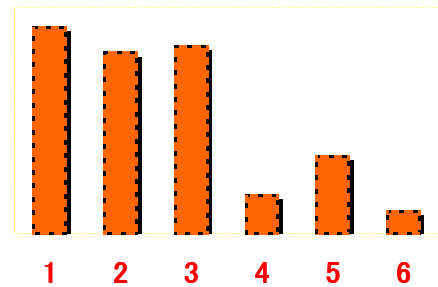
反面、住みにくい理由としては、「スーパーなど買い物施設が遠い」が最も多く「公共施設が遠い」となっている。

又、男性は71%に対し女性は52%で、女性の方が「住みやすい」と回答した率が約20ポイント低く、「スーパーなど買い物施設が遠い」などの理由があげられている。

●問7 将来像について

生活基盤

1	道路・下水が整備・充実されたところ	64	40.5%
2	災害や事故のない安心・安全なところ	56	35.4%
3	高齢者や弱者が安心して暮せるところ	58	36.7%
4	健康づくりの施設が充実したところ	12	7.6%
5	今のまま素朴なたたずまい	24	15.2%
6	その他	7	4.4%
計		221	



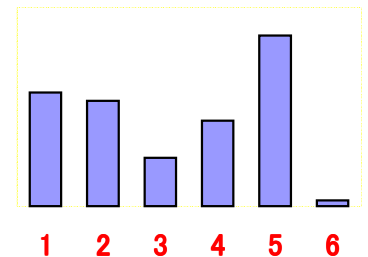
生活基盤に関するものとしては、「道路・下水道の整備・充実」の回答が40.5%と最も高く、竹野集落内は、周回道路が1本(入口と出口が同じ)で、東西に伸びる市道は、道幅が1.2mと狭く、多くの家には車が進入できない状況で、救急の場合、日常の生活の中で不便を感じている実態があります。

下水道の整備については、平成22年の下水事業の見直しで、下水処理から浄化槽推進地域に変更となり、個々での浄化槽の設置のスペース等の問題で下水道処理をしたくても設置場所の問題があり着手出来ない実態があり、整備改善を望んでいることが伺えます。

又、高齢化が急速に進展する中で「高齢者や弱者が安心して暮せるところ」が36.7%と高い数値となっている。

産業基盤について

1	農業・漁業を守っていく地域づくり	40	25.3%
2	農業・漁業の後継者を育てる地域づくり	37	23.4%
3	農業の集団化を目指す地域づくり	17	10.8%
4	多くの観光客を呼び込む交流人口の増加を目指す地域づくり	30	19.0%
5	ものづくり等新たな風を起し、雇用の場を確保する地域づくり	60	38.0%
6	その他	2	1.3%
計		186	

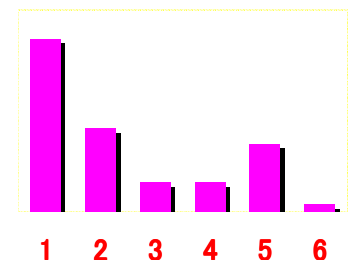


「ものづくり等の新たな風を起し、雇用の場を確保する」が38%と最も高くなっており、以前この地域では、織物業関係者が30戸くらいあったが、現在は1/3に減少、又、若者が地元に残って働きたくても雇用の場が少なく、過疎化の要因となっており、雇用の場を確保する地域づくりを望んでいると考えられます。

又、「農業・漁業を守っていく」「後継者を育てる」地域づくりが25%で、圃場整備がされている早稲田(田)・馬場(畑)の耕作者の減少があり、将来展望が持てる農業、漁業の体制作りが望まれていると考えられます。

自然・文化その他

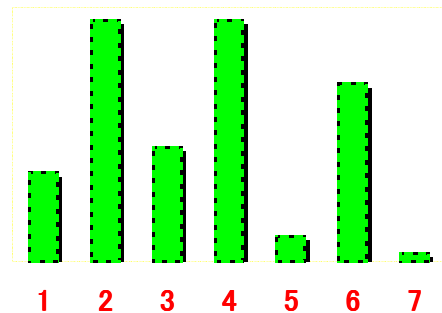
1	地域資源(田畑・海・古墳)を守り、生かすところ	77	48.7%
2	竹野神社・産土山などの歴史遺産や伝統文化を生かす	37	23.4%
3	スポーツや文化、公民館活動の盛んなところ	13	8.2%
4	花いっぱい運動など地域の美化に勤め自慢できる	13	8.2%
5	ゴミ減量リサイクル活動など、環境問題に取り組むところ	30	19.0%
6	その他	3	1.9%
計		173	



「地域資源(田畑・海・古墳)を守り生かすところ」と答えた人が48.7%と最も多く、次に「竹野神社、産土山などの歴史遺産や祭り等伝統文化を生かすところ」となっており、美しい自然環境、歴史遺産を守り育てるところを望んでいるといえます。

問8 地域の誇りについて

1 産土山・大成等の古墳や遺跡	21	13.3%
2 竹野浜・えびす山などの海岸線	57	36.1%
3 馬場の畑と新鮮野菜	27	17.1%
4 海の幸	57	36.1%
5 イベント・祭り	6	3.8%
6 地域全体の素朴な自然	42	26.6%
7 その他	2	1.3%
計	212	



「竹野浜、えびす山等の海岸線」「海の幸」の回答がどちらも36%以上となっており、海は地域の誇りといえます。

将来にわたり、海岸の保全、恵みを守り育ていかなければなりません。

問9 地域の課題

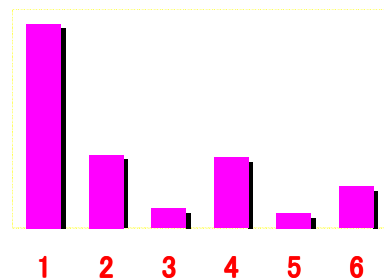
・道路が狭い、夜が暗い、進入路の増設・拡大、など道路の改修・改善の意見が20数件と数多く出されており竹野地区の最大課題であるといえます。

・「少子高齢化で、戸数の減少、高齢者ばかりの地区になってしまう」「若者の定住できる地域づくりが必要」などの意見が数多くござされており、区民の皆さんが竹野の将来について真剣に考えていることが伺えます。

・その他、小売店がない。下水道の整備。駐車場の確保。他人の悪口を言ったり批判をしたりし、世間が狭い。などの意見がありました。

問11-1 テンキテンキについて

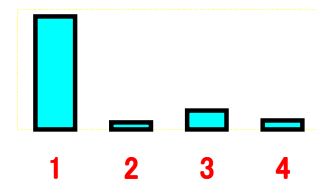
1 できる年だけしたらよい。	84	53.2%
2 6人にこだわらず、できる人数で継続	30	19.0%
3 子供が無理なら大人で継続	8	5.1%
4 女の子が混じっても継続	29	18.4%
5 その他	6	3.8%
6 無回答	17	10.8%
計	174	



秋祭りに実施されるテンキテンキの舞は室町時代から続いているといわれる伝統芸能ですが、近年子供の数が減少し高校生の参加で実施していましたが、今年、休止せざるをえなくなりました。その中でのアンケートで「できる年だけしたらよい」との回答が53.2%と少子化の中でやむをえないとの結果となっています。

問11-2 屋台について

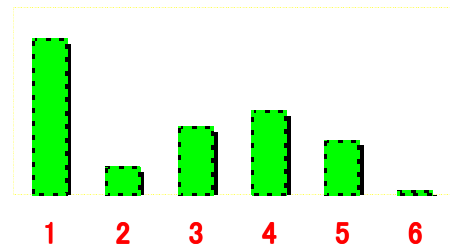
1 無理せず、台車に乗せてけん引する時間を増やす	113	71.5%
2 台車の高さを、肩の高さに改良して担ぐ	7	4.4%
3 宵祭りは軽トラに太鼓を積んでもよい	19	12.0%
4 その他	9	5.7%
計	148	



秋祭りの屋台の区内巡行・御旅については、青壮年の減少で台車を併用した巡行となっていますが、この機会に区民の意向を問うたところ、「無理をせず、台車に乗せてけん引する時間を増やす」が71.5%と圧倒的に多く、台車を利用した、屋台の巡行を望まれていることが分かります。

問10 町民運動会について

1 いまのまま継続	58	36.7%
2 対抗地区の編成買え	10	6.3%
3 種目の見直し	25	15.8%
4 自由種目のイベントを楽しむ	31	19.6%
5 その他	20	12.7%
6 具体的な意見	1	0.6%
計	145	



竹野地区運動会は、少子高齢化で選手集めが難しくなり、平成23年度から「地区対抗リレー」などの競技の廃止、内容の見直しを行い実施しています。

このような中で区の区民の意向は、「いまのまま継続」が36.7%と最も多く、気楽に高齢者も参加しやすいなど「イベントを楽しむ」「種目の見直し」などの意見が多く出されています。

これらの意見は、連合区の協議の中で積極的に反映していく必要があります。

問12 学校の跡地について

平成22年4月竹野小学校が、間人小学校に統合され、その際「竹野地区まちづくり協議会」は市当局に体育館、グラウンド、校舎について跡地利用の3項目の要望書を提出されました。その内容は

- ① 体育館は、「災害時の広域避難所及び地域の文化スポーツ活動に必要な整備」
- ② グラウンドは、「全面芝生化と夜間照明施設の再整備」
- ③ 校舎は、「地元雇用が可能な福祉施設の再整備」となっています。

今回、「竹野地域まちづくり計画」策定にあたって、跡地利用は切り離せない課題であり改めて意識統一を行い、市へ働きかけることとして意見集約を行いました。

その結果は

- 1、竹野地区まちづくり協議会(以下「協議会」という)の要望に全面的に賛成 **62人**
- 2、協議会要望に概ね賛成だが、(イ)、体育館についての意見 **5人**
(ロ)、グラウンドについての意見 **16人**
(ハ)、校舎についての意見 **5人**
- 3、全く違う考えをお持ちの方 **7人**

となっており、協議会の要望に全面的に賛成、概ね賛成と回答しておりますが、グラウンドの全面芝生化については、少し意見がだされています。

自治会、地域づくりについての意見

自治会、地域づくりについて、いろんな角度から貴重な意見がだされており、その中で竹野区の地域づくりには、区民の皆さんが知恵を出し合い協力していかなければ改善はできないという意見に集約することができます。

住民アンケート各項目の記述一覧

説明 各項目で記述のあったものをすべて拾い出しています。
 左端のアルファベットは M=男性、W=女性
 アルファベット右の数字は 1=10代、2=20代、3=30代・・・7=70代

問9. 地域の中での課題について

- M1 店が少ない
- M1 店が無い
- M2 買い物をする場所が無いのが不便
- M2 無駄なものが多すぎる
- M2 夜暗い
- M3 小売店が無い
- M3 少子化
- M3 道路が狭く災害時の避難が困難である、次世代が定住できる新たな雇用の場が必要
- M4 少子高齢化、人口の減少
- M4 道路が狭い、雨排水路の整備、集落の中央に道路の確保
- W4 小売店が少ない
- M4 道が狭く夜暗い
- M4 道路が狭い、夜暗い、小売店が無い、若い人がいない、お見合いパーティ等イベントをしてほしい
- M4 若者がいない
- M5 夜が暗い、もっと明るくしてほしい
- M5 道路の整備、水道水がまずい
- M5 適齢期の人が結婚すること
- M5 若者の仕事が無いから住みたくても住めない、人が増えれば地域は良くなる可能性がある
- M5 雨排水路の容量が不足している、溝蓋を整備し道路の狭さを解消してはどうか
- M6 少子高齢化で年寄りばかりの地区になりそう、若者が定住できる地域づくりが必要
 土地が狭く自動車道は外周のみで道路駐車多く危険、他地区から会議で集会所に来てても駐車スペースが無い
- M6 道路が狭いうえ駐車場もない、下水道の整備
- M6 個人的には悪い人はいないと思うが陰で他人の悪口を言っていることを耳にする、人間は完全な人はいません、相手を思いやり皆が協力して住みよい竹野にすることが大切ではないでしょうか
- M6 住みよい竹野を創るには道路問題の解決が必要、子々孫々が住んでもいいと思う竹野にするため30年・50年先を見越した道路計画を作る、夢プランは途中で不便になるが各家庭に救急車の入る町づくりをしよう
- M6 道路が狭い、夜暗い、小売店が無い
- M6 家の前の道路（農道）の舗装、どうしたらできるか、農道から区道、市道への昇格も考えてほしい
- M7 道路が狭い、夜暗い、小売店が無い
- M7 社会資本（下水道・道路）の整備、スーパーなど商店が遠く老人は暮らしが不便→対策づくり
- M7 雨排水路の整備、車の通行できる避難道、高台に行ける道（大成・早稲田）
- W3 若い世代が少ない
- W3 有りません
- W4 老若問わず定住してくれる人を迎えられよう地域になるといいと思う
- W4 駐車場が少ない
- W4 道路が狭い
- W4 お寺付近から民宿日下まで溝蓋をしてほしい（車の離合が困難）、カーブミラーを増やしてほしい
 浜で家庭ごみを燃やさないでほしい、家の中まで煙が入り困る、区の浜掃除で年に数回は仕方ないが
- W4 小売店が無い
- W4 下水道の整備
- W4 外灯が少ない、若い家族が無く子供が少ない
- W5 道路が狭い、冬の雪道が歩きにくい

- W5 中の道が凸凹していて危ない、浜のゴミが目につく
- W5 小売店がほしいです（にしがきに置いているようなものがあればよい）
- W5 猫をどうにかしてほしい
- W5 小売店が無いため生活用品の買い物にマイカーがいる、運転できない人は不便だろう
適齢期の人の結婚（出会いの場を作る）
- W5 道路が狭く駐車場から自宅まで距離があるため重い荷物が有るときは大変、冬は除雪後の雪かきが大変
高齢者や車の無い人は買い物不便、移動販売では品数が少ない
- W5 道路が狭い、雨排水路の整備
- W5 来客が有っても遊んでいただく場が無い、道路が狭い
- W6 若者が少ない
- W6 道路が狭い、家の側まで車が行けない、大雨で道が川のようになるので水路の整備
- W6 近くに店が有ったらとつくづく思う
- W7 夜暗い、小売店が無い
- W7 外灯が少ない
- W7 一大事の場合に大型車の通り抜けの道が無い
- W7 出口と入り口が同じということは一大事の際心配、今この問題を取り上げ解決することは区民の願い
- W7 少子高齢化の中、人口の激減を考える
- W7 小売店がほしい（にしがきに置いているような品がほしい）
- W7 小売店が無い
- W7 小売店が無い
- W7 年寄りが遊びに行くところが無い

問 10. 運動会について

- M1 新しく種目を増やす
- M2 人数の少ない区があるのでチーム数を三つぐらいにしたほうがよい（竹野・宮牧願・筆乗此）
- M2 しなくていい、本人同意なしに名前を書くな
- M3 すべて自由参加
- M3 竹野東西を統合、此代乗原を統合し4チーム対抗
- M4 形に捉われず、スポーツ広場で老若男女楽しめるように（グラウンドゴルフ、ペタンク、ビーチボールバレー）
- M4 間人と同じでいい
- M4 運動会の日を変えてほしい、足腰に負担のかからない種目を入れる
- M4 自由に参加して小さな子からお年寄りまで一緒に種目を楽しむ
- M4 楽しむ行事的要素を入れた方がよい
- M5 しないでよい、各区とも高齢者が多すぎる
- M5 一競技種目で全員参加する（例＝グラウンドゴルフ）
- M5 紅白に分ける
- M5 子供の教育を考えるなら学校全体で一会場、その中で子供は学ぶべき
- M5 中止
- M6 継続したらいいと思う、小さな区が参加しやすいように大きな区があわせていく
- M6 気軽に参加でき、高齢者も参加できる協議を増やし交流の場として種目を考える
- M6 子供の絶対数の減少の中で大人の高齢化もあり運動会の継続は困難と思う
- M6 旧竹野村区域の多くが集う場として必要、楽しむ交流のイベントに
- M6 此代乗原筆石、竹野、宮牧願興寺の3地区対抗はどうか
- M6 対抗地区の編制替えができますか？
- W6 もうしなくてもよい
- M7 地区対抗ではなく地区民全員が楽しめるイベントの実施
- M7 半日でも良いが運動会より他のスポーツでも
- W1 廃止
- W2 若い人にも楽しめるようにしてほしい
- W3 間人地区との合同開催の検討
- W4 毎年同じ種目ばかりでなく新種目を入れる、子供たちも参加できるようにしてほしい

- W4 小規模でするなら、もっとみんなが楽しめる種目を工夫してほしい
- W4 かりもの競走、棒引き
- W4 しなくていい
- W5 体力づくりのイベントとしてしてもよい
- W5 間人小ですればよい
- W5 少子高齢化が進み選手確保が困難では？、種目の精選と形態の変更
- W5 小中学生の全員リレー、保育所児童と親子の生涯総、竹野小校歌を生かす内容の競技（カードに歌詞を書いて併せてゴールへ、パズルのようにして完成したチームが優勝）
- W5 老人が多いので子供たちと仲良く楽しむイベントがしてほしい
- W5 対抗地区の編制替えをしないと少ない所は大変では
- W5 全員参加のできる種目が少ない（老人が楽しめるもの）
- W6 人口が少なくなっているから種目の見直し
- W6 年配の人がもっと多く楽しめる種目を考える
- W6 無理にしなくても良い
- W6 毎年義務的参加をしている
- W6 高齢者が多くなり、だんだん無理になってくるので将来はやめた方がよい
- W6 人が集まらない、活気が無い、さびしさを感じる
- W7 得点にこだわらず、若いも若きも楽しめる種目を取り入れる

問 11-1. 秋祭りのテンキテンキについて

- M4 区民の関心が無いようなので祭り自体を止めた方がよい、時代に合わない、必要があれば復活する
- M6 伝統芸能を無くさないように
- M7 できる年だけ実施し、伝統芸能としての歴史を出来るだけ調べ、後世に引き継いでいけるように
- W3 できればこれまで通りと願うが、人数確保が無理なら宮や筆石から子供を呼んで行く
- W5 子供がいなくなったら出来ないのではない
- W5 他町（大宮）では女の子を入れて祭りを継続している、今の時代に男・女をこだわるのは・・・
- W6 伝統行事だから昔通りの形がよいと思うので、人数がいらないなら止めにした方がよい
- W6 子供が多くなったら復活したらよい

問 11-2. 太鼓屋台の維持について

- M2 金出してよそから来てもらう
- M4 大屋台を無くし、小屋台を担ぎ巡行
- M4 区民の関心が無いようなので祭り自体を止めた方がよい、時代に合わない、必要があれば復活する
- M6 担ぎ手がおる限り、続けて行ったらいいと思う
- M6 宮入り、御旅は台車にしても村中は担いだ方がよい、今までから横につく人が多すぎる
- M7 台車を改良し地区内多くを巡回できる体制をつくる
- M7 子供だけでよい
- W4 屋台を軽くする
- W6 人口減少の今、三つなくても、例えば屋台を一つにして子供と大人と合同で巡行するとか
- W7 子供だけでよい

問 12. 学校跡地について

- M2 全面芝生化は管理等が厳しいと思う
- M2 有料のキャンプ場にする
- M3 全面芝生化は維持管理費に大きな予算が必要、人工芝または人口土の全面敷き詰めでも良いかも
- M4 ①避難場所には適さないと思う ②夜間照明の再整備は賛成 ③耐震上残すことには反対
- M4 グラウンドについては特に手を加える必要を感じられない、全面芝生化は維持に手間がかかるので反対
- M4 思いつくことはないが何か違うことできればいい
- M4 体育館の使用料が高い
- M4 竹野連合区の事務所にし、各施設を整備して区民に貸出する等の利用
- M5 避難場所のためには耐震補強が必要、芝生化はメンテに経費がかかりすぎるため定期的な草刈でどうか

- M5 グラウンドをフリーマーケット（特に飲食）で活性化を図る、町外・市外からの誘客は不可能ではない
雨天時は体育館で開催する
- M6 府内外を問わず何かで情報を出してみたら
- M6 全面芝生化は管理が大変、今のままで良いのでは
- M6 跡地を若者定住住宅にしてはどうか
- M6 芝生化は不要、無駄です
- W3 芝生化は維持管理に多額の費用と労力を要するため、見直し又は再検討が好ましい
- W4 福祉施設はバリアフリーにしてほしい、グラウンドは公園のようにベンチを置いてほしい
- W4 特定の使用者が決まると体育館等で使いにくくなる、合宿程度がいい、体育館の時計ぐらいは動かして
- W5 スポーツ活動に使用しているが体育館の鍵を間人公民館まで借りに行っていることを何とかしてほしい
- W5 道の駅のようにふらっと立ち寄って海を見ながら飲食や買い物ができる施設、地元の幸の田舎料理
- W5 建物の屋根で太陽光発電を
- W5 全面芝生化の理由が知りたい
- W5 グラウンドで盆踊りの場として連合区一本化で多くの参加ができれば楽しい
- W6 もし福祉施設が誘致できたら体育館だけ切り離して区が利用するのは不自然な気がする
- W7 産業誘致
- W7 芝生化は運動会するのに困ると違いますか
- W6 体育館は今のところ使えるが、照明が点いていない所がある

最後に自治会・地域づくりに関する意見

- M4 自治会や地域づくりに取り組んでいる方々がいるのに、参加せず文句を言う人がいるので、一緒にやって理解してほしい、いつも同じメンバーがやっているのが不公平
- M4 時代を見据えた考え方で改革しなければ全ては無駄になってしまう
- M5 素晴らしい自然を利用し活性化を目指し、元来の人間らしさの「ふれあい演芸」を開催、高齢者は微笑み子供達には情操教育になる、演劇鑑賞をみんなで（自分が出演するのもOK）
- M6 一人の人が複数の役を持ちご苦労すぎる、できるだけ多くの人に役を分担して個人の負担を軽減する
- M6 少子高齢化が激しく過疎化が進行、若者が地元に残り働く場があり結婚できる環境づくりが必要
圃場整備ができたのに馬場・早稲田も耕作者が無く荒れている、営農組織づくりで野菜作り販売などを行い農地を守り働く場の確保ができないか、都会から就農者を募る取組も考えては・・・
- M6 誰もが順番に役員のできる簡素で質素な区政
- M7 土地の少ない地区だから広いグラウンドの活用を考え直すチャンスと思いますが、避難場所としては崩壊危険区域を考えると・・・
- W5 人と人との繋がりを大切にする
- W6 竹野は道と屋敷の境が無い狭いところ、空家ができれば区が買い上げ道路にするとか長期計画で抜本的な道路整備をして、家の側に車庫を持てるようにならないと若者が返ってくることは考えられない
- W7 学校跡地の掃除は登録制ですが、出れる人が行く方がみんなの交流ができてよいという意見が多数あり
- W7 雨樋の水を道に流しているところ大変多いように思います、自分勝手な所を出来るだけ直してほしい
協力が欠けている、自分勝手や人の足を引っ張らないように、竹野全体が一つになるよう考えなおして
- W7 竹野入り口の側溝溝蓋は車が通るたびにガタガタ鳴るので直してほしい
お寺・集会所背後のコンクリー壁にツタを植えたらグリーンカーテンができて照り返しが少なくなると思う